

第 2 学 年 体 育 科 学 習 指 導 案

日 時 平成28年〇月〇〇日 (〇) 第〇校時
 対 象 第2学年〇組 〇〇名
 学校名 〇〇立〇〇小学校
 場 所 体育館

1 単元名 体づくり運動「多様な動きをつくる運動遊び」

2 単元の目標

運 動	用具を操作したり力試しをしたりする動きなどができるようにする。
態 度	運動にすすんで取り組み、きまりを守り仲よく運動をしたり、場の安全に気を付けたりすることができるようにする。
思考・判断	簡単な運動の行い方を工夫できるようにする。

3 単元の評価規準

	ア 運動への関心・意欲・態度	イ 運動についての思考・判断	ウ 運動の技能
単元 の 評 価 規 準	体づくり運動にすすんで取り組みとともに、順番やきまりを守り仲よく運動をしようとしたり、運動する場の安全に気を付けようとしたりしている。	体づくりのための運動の行い方を工夫している。	多様な動きをつくる運動遊びを楽しく行うための体の基本的な動きや各種の運動の基礎となる動きを身に付けている。
学 習 活 動 に 即 した 評 価 規 準	① 運動にすすんで取り組もうとしている。 ② 運動の順番やきまりを守り、友達と仲よく運動をしようとしている。 ③ 友達と協力して、用具の準備や片付けをしようとしている。 ④ 運動をする場や用具の使い方などの安全に気を付けようとしている。	① 多様な動きをつくる運動遊びの行い方を知るとともに、運動する場や使用する用具などを変えながら、いろいろな運動の仕方を見付けている。 ② 多様な動きをつくる運動遊びの動き方を知るとともに、友達のよい動きを見付けている。	① 用具を操作したり力試しをしたりする動きができる。

4 指導観

小学校学習指導要領解説体育編第3章第1節A体づくり運動(1)によると、「体を動かす楽しさや心地よさを味わうとともに、体の基本的な動きができるようにする。」とある。本単元においては、「イ多様な動きをつくる運動遊び」を扱い、児童が、体のバランスをとったり移動をしたりする動きや、用具を操作したり力試しをしたりする動きを意図的にはぐくむ運動遊びを通して、体の基本的な動きを総合的に身に付けることができるようにすることが大切であると考えます。

(1) 単元観

ア 一般的特性

(ア) 体のバランスをとったり移動をしたりする動きや、用具を操作したり力試しをしたりして体の基本的な動きを総合的に身に付ける運動である。

(イ) いろいろな運動を通して、動くこと自体の楽しさが味わえる運動である。

(ウ) 結果として、体力向上の基礎につながる運動である。

イ 児童から見た特性

(ア) 夢中になって運動遊びに取り組むことで楽しさや喜びを感じることができる運動である。

(イ) 友達と一緒に体を動かす楽しさや心地よさを感じることができる運動である。

(ウ) 動きを工夫したり、新しい動きを考えたりしたときに楽しさに触れることができる運動である。

(2) 教材観

低学年の多様な動きをつくる運動遊びは、「体のバランスをとる運動遊び」「体を移動する運動遊び」「用具を操作する運動遊び」「力試しの運動遊び」の4つの運動遊びで構成されている。

低学年では、発達の段階を踏まえると、体力を高めることを直接の目的とすることは難しいが、将来の体力向上につなげるために、この時期に様々な体の基本的な動きを培っておくことが重要である。

低学年では、様々な楽しい運動遊びをしながら広く体の基本的な動きを身に付けることをねらいとし、たくさんの運動経験を児童にさせることが重要である。

体づくり運動領域の目標ならびに評価の観点「技能」ではなく、「運動」となっている。動きを身に付けることよりも、様々な動きを経験することを重視していると考えられる。そのため、神経系がもっとも発達する低学年の時期では、一つの動きを繰り返し練習することよりも、様々な動きを経験し、動きの楽しさを味わわせることが重要である。そこで、授業では小学校学習指導要領解説体育編の例示にある動きを、もしぎこちなくてもできれば「できる」と捉え、易しい動きからスタートをさせる。

児童にとっては確実に動きを身に付けることを目指すのではなく、力いっぱい体を動かすことによって運動が好きになり、結果として動きを身に付けていけるようにする。

以上のことを踏まえ、また児童の実態から今回の体育学習では、次の点について工夫し、授業を構成する。

○児童が夢中になって運動遊びに取り組み、体の基本的な動きを総合的に身に付けることのできる指導法の工夫

○児童が多様な動きをつくる運動遊びの特性を味わうことができる学習過程の工夫

5 年間指導計画における位置付け

第1学年	第2学年
多様な動きをつくる運動遊び (20時間)	多様な動きをつくる運動遊び (20時間)
1学期 【バランス】【用具：ボール】 (5時間)	1学期 【バランス】【移動】【用具：縄】 (5時間)
2学期 【移動】【用具：缶下駄】 (5時間) 【バランス】【用具：輪】 (5時間)	2学期 【バランス】【移動】【用具：缶下駄】 (5時間) 【バランス】【移動】【用具：輪】 (5時間)
3学期 【力試し】【用具：縄】 (5時間)	3学期 【力試し】【用具：ボール】 (5時間)

6 単元の指導計画と評価計画（3学期 5時間扱い）

時数	ねらい	学習活動・学習内容	評価規準 (評価方法)
1	多様な動きを経験する。	1 集合・整列・挨拶 2 学習の流れを確認する 3 準備運動 4 チャレンジタイム① 【力試しの運動遊び】 人を押す、引く、力比べ ・「手押しずもう」 ・「肩押しずもう」 人を運ぶ、支える ・「魔法のじゅうたん」 5 チャレンジタイム② 【用具を操作する運動遊び】 (ボールを投げる、捕る) ・上に投げて両手や片手で捕る ・ペアで取り組む (ボールを送る) ・円になって ・姿勢を変えて (ボールを挟んで運ぶ) ・姿勢を変えて ・人数を変えて ・コースを変えて 6 整理運動・片付け 7 振り返り 8 集合・整列・挨拶	アー① 運動にすすんで取り組もうとしている。(観察) アー② 運動の順番やきまりを守り、友達と仲よく運動をしようとしている。(観察)(学習カード) アー③ 友達と協力して、用具の準備や片付けをしようとしている。(観察)(学習カード) アー④ 運動をする場や用具の使い方などの安全に気を付けようとしている。(観察)(学習カード)
2		【用具を操作する運動遊び】 (ボールを送る) ・円になって ・姿勢を変えて (ボールを挟んで運ぶ) ・姿勢を変えて ・人数を変えて ・コースを変えて 6 整理運動・片付け 7 振り返り 8 集合・整列・挨拶	ウー① 用具を操作したり力試しの運動遊びをしたりする動きができる。(観察)(学習カード)
3	経験した動きを広げる。	1 集合・整列・挨拶 2 学習の流れを確認する 3 準備運動 4 チャレンジタイム① 【運動遊び】 人を押す、引く、力比べ ・「たわらがえし」 ・「糸まきまき」 人を運ぶ、支える ・「わにじゃんけん」 5 チャレンジタイム② 【用具を操作する運動遊び】 (投げる、捕る) ・いろいろ投げキャッチ ※場を選んで運動遊びに取り組む。 (ボールを送る) (ボールを運ぶ) ・ボール運びレース ・ボール送りレース 6 整理運動・片付け 7 振り返り 8 集合・整列・挨拶	イー① 多様な動きをつくる運動遊びの行い方を知るとともに、運動する場や使用する用具などを変えながら、いろいろな運動の仕方を見付けている。(観察)(学習カード)
4 (本時)		イー② 多様な動きをつくる運動遊びの動き方を知るとともに、友達のよい動きを見付けている。(観察)(学習カード)	
5		ウー① 用具を操作したり力試しの運動遊びをしたりする動きができる。(観察)(学習カード)	

7 指導に当たって

(1) 児童が夢中になって運動遊びに取り組み、体の基本的動きを総合的に身に付けることのできる指導法の工夫

ア ゲーム化について

体の基本的な動きを総合的に身に付けるために、低学年では動きを増やすことを重点とする。低学年の運動遊びでは、トレーニング的になるのではなく、遊びを繰り返す中で動きが身に付くように遊び方を工夫させる。しかし、運動を繰り返してだけでは、運動に飽きやすい。そこで、ゲーム化や競争を取り入れることにより、意欲的に運動に取り組めるようにする。ゲーム化において大切なことは、ねらっている動きから離れないように指導していくことである。

イ 指導の進め方

単元を通して児童が運動の楽しさを持続できるようにする。児童が一つの動きを身に付けられていなくても、その次の動きに取り組めるようにする。たくさん動きに取り組んでいく中で、最初に取り組み、できていなかった動きを身に付けることができると思う。

ウ 評価における「おおむね満足できる状況」の設定

運動面においては、「はじめの動きができること」を規準とする。「はじめの動き」ができると児童の学びも深まり、楽しさを味わうことができる。「はじめの動き」とは、学習指導要領解説(体育編)の例示の動きができることである。児童にとって易しい動きからスタートする。

思考・判断面においては、「友達のよい動きを見付けること」を規準とする。児童がよい動きを理解することが大切であると思う。

エ 遊び方の工夫

「もっと運動がしたい」と思えるように、様々な遊び方で運動遊びに取り組めるようにする。「達成型」

ボールの捕り方・投げ方を工夫して、できないことができるようになることが楽しい遊び方を

「競争型」

相手やチームと競争して、どちらが勝つか負けるかが楽しい遊び方。「ボール運びレース」や「ボール送りレース」をする。

「友達との関わり」

友達と同じタイミングで運動遊びに取り組んでみたり、一緒にボールを操作したりすることで、より楽しく遊ぶことができる。

オ 動きの工夫の視点

単調な動きが繰り返されて、児童が受け身の運動遊びとならないように、姿勢、方向などの動き方に変化を付けて楽しい運動遊びに広げていく。

(2) 児童が多様な動きをつくる運動遊びの特性を味わうことのできる学習過程の工夫

ア 「知る」「広げる」時間の設定

児童が夢中になって運動遊びに取り組み、楽しみながら多様な動きが身に付けていくために、「知る」と「広げる」時間を設定する。

「知る時間」は、児童の「やってみよう」という運動欲求を大切にしながら、動きを一つ一つ確認しながら運動をする時間である。

「広げる時間」は、「知る時間」で経験した動きやできるようになった動きを選んだり、工夫したりしながら運動する時間である。

第1学年では、初めて動きに出会うため、「知る時間」を多く設け、第2学年では、「広げる時間」を多く設けて多様な動きを身に付けさせる。

イ よい動きを共有する時間の設定

1 単位時間の中に、「よい動きを共有する時間」を設ける。

「よい動き」とは、「学習指導要領解説(体育編)の例示にある動きのこつやポイントにつながる動きができていること」と、「新しい動きの工夫を取り入れていること」である。

児童から動きのこつを引き出し、学級全体に広める。よい動きをしている児童の姿を紹介し、よい動きを価値付けるとともに、よい動きを理解させる。さらに、友達のよい動きを見た後で、もう一度運動に取り組み、よい動きを全体で共有できるようにする。

ウ 学習形態の工夫

個人での活動からペアでの活動、ペアからグループでの活動へと運動遊びの行い方を変化させることによって、より楽しい運動遊びにしたり、児童が互いにより動きに気付いたり、工夫の仕方を広げたりすることができるように考える。

エ 「チャレンジタイム①、②」の時間の設定

1 単位時間の中でより様々な多様な動きを経験させるため、授業の流れを大きく2つの時間で構成をする。

「チャレンジタイム①」では、力試しの運動遊びを行う。

「チャレンジタイム②」では、用具を操作する運動遊びを行う。1 単位時間の中で2つ以上の運動遊びを経験できるようにする。

「チャレンジタイム②」(第3時～第5時)

「広げる」段階である第3時～第5時では、ボール投げ・キャッチの後は、場を選択して運動遊びに取り組む。

「ボール運びレース」

手を使わずにボールを体で挟んで運び、競争をする。途中でボールを落としたり、その地点からやり直す。人数は4人から5人で行う。コースをジグザグにして競争することも経験させる。

「ボール送りレース」

一列に並び、4人から5人で前からボールを順に送っていく。ボールを送った児童は並んで最後の順に移動していく。ボールの種類や送り方を変えて競争することも経験させる。

オ 用具を操作する運動遊びを重点的に指導する。

多様な動きをつくる運動遊びは、「体のバランスをとる運動遊び」「体を移動する運動遊び」「用具を操作する運動遊び」「力試しの運動遊び」の4つの運動遊びに分類される。その中でも一番動きを身に付けることが難しい「用具を操作する運動遊び」に重点をおいて指導する。

カ 年間指導計画について

単元全体の20時間を年間通して5時間ずつ4回に分けて行い、運動の日常化を図る。

8 本 時 （5時間中の第4時間目）

(1) 本時の目標

○友達のよい動きを見付けることができるようにする。(思考・判断)

(2) 本時の展開

時間	学習内容・学習活動	指導上の留意点・配慮事項	評価規準 (評価方法)
導入 5分	1 集合、整列、挨拶 2 学習の流れを確認する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">友達のよい動きを見付けよう！</div> 3 準備運動を行う。	○服装を整えさせる。 ○学習のめあてを確認する。 ○体と心のスイッチを入れる運動を行う。	
展開 30分	4 チャレンジタイム① 力試しの運動遊びをする。 人を押す、引く、力比べ ・「たわらがえし」 ・「糸まきまき」 人を運ぶ、支える ・「わにじゃんけん」	○安全に気を付けて、友達が痛いと言った場合は、すぐに運動を止めるように指導する。 ○姿勢を変えるなど、動きを工夫している児童を見付けられるように言葉掛けを行う。	イー② 多様な動きをつくる運動遊びの動き方を知るとともに、友達のよい動きを見付けている。 (観察) (学習カード)
	5 チャレンジタイム② ボールを操作する運動遊びをする。 ・いろいろ投げキャッチ ○よい動きの共有を行う。 ・こつを見付けている児童 ・動きを工夫している児童 ○もう一度運動遊びに取り組む。 ○場を選択して運動遊びをする。 ・ボール運びレース ・ボール送りレース	○周りや場の安全に気を付けて運動させる。 ○投げ方、捕り方に工夫があることを伝え、動きを工夫している児童を見付けられるように言葉掛けを行う。 ○運動の途中で、よい動きを共有する時間を設定し、動きを工夫している児童を紹介し、全体に価値を広める。 ○うまくいかない児童には、動きのポイントについて言葉を掛け、教師も一緒に行い支援する。	イー② 多様な動きをつくる運動遊びの動き方を知るとともに、友達のよい動きを見付けている。 (観察) (学習カード)
まとめ 10分	6 整理運動、片付けを行う。 7 振り返りを行う。 8 集合・整列・挨拶	○使った部位をしっかりと伸ばすようにさせる。 ○本時のねらいに応じた振り返りを行う。友達のよい動きを見つけた児童を称賛する。	